

フェイスブック(FB)

【セクター】 通信サービス

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

世界最大のソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)運営企業です。「フェイスブック(Facebook)」、「インスタグラム (Instagram)」、「メッセンジャー(Messenger)」、「ワッツアップ(WhatsApp)」などを運営して、中国を除く世界のSNSサービスで圧倒的なシェアを保有しています。売上の48%を米国・カナダが占め、99%を広告収入が占めます(18年12月期)。4つのアプリ合計では、月1回以上利用する人が約27億人、毎日利用する人が約21億人に達します。ドルなどの通貨に価値をひも付ける暗号通貨「リブラ」構想を主唱しています。

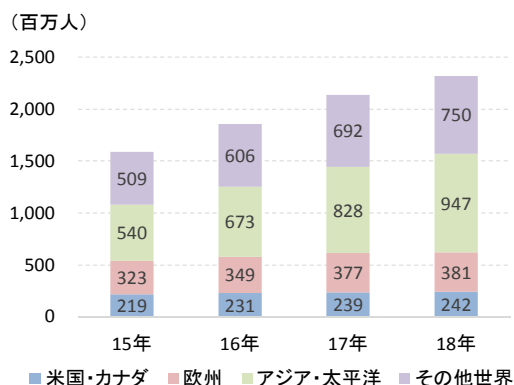
【業績】 (単位: 売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%)

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
17年12月期	40,653	18,193	6.16	0.00	25.6	27.2	88.0
18年12月期	55,838	22,111	7.57	0.00	29.5	27.9	86.4
19年12月期予想	70,231	24,564	8.90	0.00	35.0	21.8	-

※EPS: 1株当たり利益、DPS: 1株当たり配当、BPS: 1株当たり純資産、ROE: 株主資本利益率 (出所) BloombergデータよりSBI証券が作成

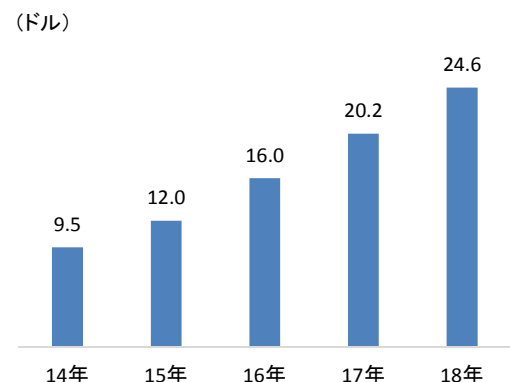
【主要指標】

図表1 「フェイスブック」の月間アクティブユーザー数



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

図表2 ユーザー当たり売上高



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

SNSはネットワーク効果(潜在的な顧客にとっての物やサービスの価値が、既にその物・サービスを利用している顧客の数に依存すること)が大きいことから、同分野で同社に追いつくのは非常に難しくなっていると考えられ、これが同社に質の高い利益成長を期待できる根拠となっています。データ流出事故の影響もあって広告単価の上昇は鈍っているものの、「フェイスブック」以外の事業の収益化により2割超の売上成長が維持されています。一方、現在進められている独占禁止法違反の調査では、「インスタグラム」「ワッツアップ」の買収まで遡って対象になるとされ、会社分割など深刻な結果を招く可能性がある点には注意が必要です。

【見通し・注目点】

4-6月期は、20億ドルの法務費用計上を除けば、月間アクティブユーザーが前年同期比8%増、顧客当たり平均収入が前年同期比18%増と伸びが盛り返して、文句なしの業績でした。個人情報漏洩問題も同社の広告事業に重大な影響は見られておらず、「フェイスブック」の収益に若干の影響が出ても「インスタグラム」や「メッセンジャー」の収益化が相殺して業績を押し上げていると見られます。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 19/8/28)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。